

# メバチ 大西洋

Bigeye Tuna *Thunnus obesus*



## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：17 歳以上
- 性成熟年齢：3 歳で始まり、4 歳以上で全個体が性成熟に達する
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のマグロ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のマグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類

## 利用・用途

刺身、すし、缶詰等に利用されている。

## 漁業の特徴

本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が人工浮き魚礁 (FAD) 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

## 漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は 6 万～8 万トンで推移し、2020 年の総漁獲量は 5.7 万トン (予備集計) で前年から大きく減少し、総漁獲可能量 (TAC) (6.25 万トン) を下回った。2020 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約半分弱 (48%) であり、まき網の漁獲 (31%) は 2005 年以前に比べて比率が高い。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りで 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

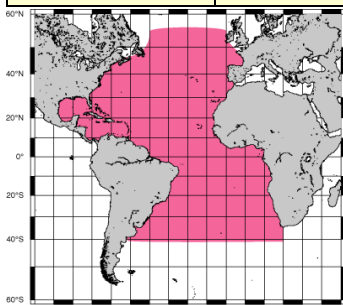
## 資源状態

ICCAT の科学委員会は、2021 年に資源評価を実施し、統合モデル (SS3) による結果を管理勧告に用いた。結果として、最大持続生産量 (MSY) : 7.2 万～10.6 万トン (中央値 8.7 万トン)、MSY を実現する漁獲死亡係数 (F) 及び産卵親魚量 (SSB) に対する比は、各々  $F/F_{MSY}$  : 0.63～1.35 (中央値 1.00)、 $SSB/SSB_{MSY}$  : 0.71～1.37 (中央値 0.94) と推定され、資源状態は乱獲状態及び過剰漁獲とされた。2021 年時点の TAC (6.15 万トン) を維持した場合、2034 年に資源が乱獲状態及び過剰漁獲でなくなる確率はおよそ 97% とされた。

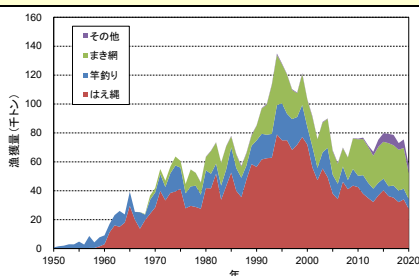
## 管理方策

2015 年の ICCAT 年次会合において資源管理措置を決定した (2016 年一部改訂)。漁獲能力制限として、主要漁業国のはえ縄及びまき網における全長 20 m 以上の漁船における年間操業隻数が制定されている。毎年の TAC は 6.5 万トンに設定し、各国に漁獲枠が割り振られている。メバチ・キハダの幼魚が多く生育するギニア湾における FAD を含めた付き物操業の禁漁期、禁漁区域は、2015 年の年次会合で変更され、若干拡大 (南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域において、1 月 1 日～2 月 28 日; 2017 年 1 月から適用) された。同禁漁期/区で操業するまき網や竿釣り船には、引き続きオプザーバーの乗船が義務付けられている。また、FAD 数を 1 隻当たり一度に 500 基までとする。2002 年 4 月から、統計証明制度 (輸入には漁業国の証明書が必要) が開始されている。2019 年の ICCAT 年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、新たな TAC は 2020 年に 62,500 トン、2021 年に 61,500 トンとされた。また、2020 年には 1～2 月の 2 ヶ月間、2021 年には 1～3 月の 3 ヶ月間、大西洋全体において FAD 操業の禁止を決定した。FAD 数は、1 隻当たり一度に 350 基 (2020 年) 及び 300 基 (2021 年) までとした。2021 年 11 月の ICCAT 年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022 年は、TAC は 62,000 トン、FAD 禁漁 (大西洋全体) は 1 月 1 日～3 月 13 日の 72 日間に決定された (それ以外は同じ措置を 2022 年も継続)。

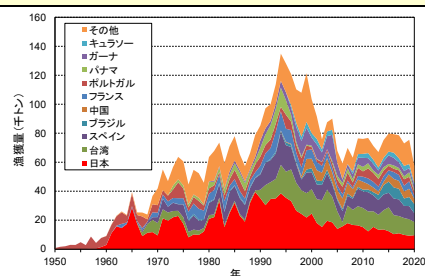
| メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表） |  |
|---------------------|--|
| 資源水準                | 低位   |
| 資源動向                | 横ばい  |
| 世界の漁獲量（最近5年間）       | 5.7万～7.9万トン<br>最近（2020）年：5.7万トン<br>平均：7.3万トン（2016～2020年）   |
| 我が国の漁獲量（最近5年間）      | 0.9万～1.1万トン<br>最近（2020）年：1.0万トン<br>平均：1.0万トン（2016～2020年）   |
| 管理目標                | MSY：7.2万～10.6万トン（中央値8.7万トン）（2020年の漁獲量：5.7万トン）  |
| 資源評価の方法             | SS3による解析：はえ縄漁業の単位努力量当たりの漁獲量（CPUE）、及び漁獲動向等により水準と動向を評価   |
| 資源の状態               | $F/F_{MSY} = 0.63 \sim 1.35$ （中央値1.00）、 $SSB/SSB_{MSY} = 0.71 \sim 1.37$ （中央値0.94）   |
| 管理措置                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・TAC（6.5万トン：2019年、6.25万トン：2020年、6.15万トン：2021年、6.2万トン：2022年）、主要国の漁獲枠、漁船隻数枠の設定</li> <li>・ギニア湾（南緯4度、北緯5度、西経20度、アフリカ大陸で囲まれた海域）における1月1日～2月28日（2016～2019年）もしくは大西洋全体における1月1日～2月29日の2ヶ月（2020年）、1月1日～3月31日の3ヶ月（2021年）ないし1月1日～3月13日（2022年）の72日間のFAD操業禁漁期設定、FAD数制限</li> <li>・統計証明制度</li> <li>・オブザーバー乗船（まき網、竿釣り）</li> </ul> |
| 最新の資源評価年            | 2021年  |
| 次回の資源評価年            | 未定   |



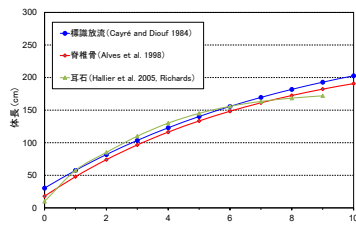
大西洋におけるメバチの分布



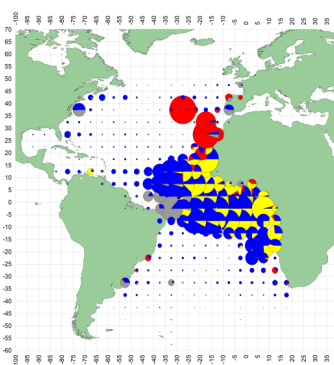
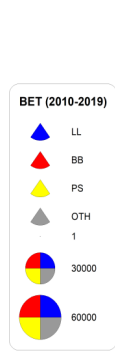
大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量（1950～2020年）



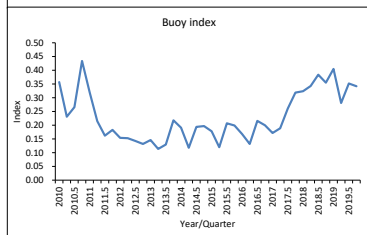
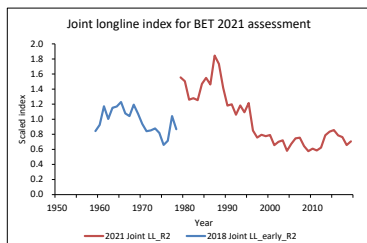
大西洋におけるメバチの国・地域別漁獲量（1950～2020年）



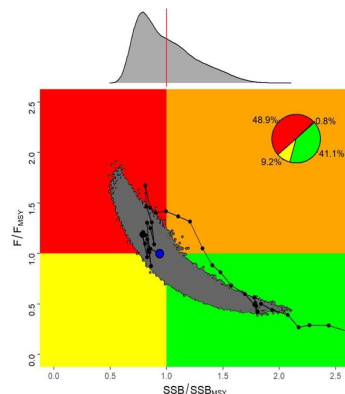
標識放流、脊椎骨及び耳石から推定されたメバチの成長曲線



主要なまぐる漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布（2010～2019年）  
青：はえ縄、赤：竿釣り、黄：まき網、灰：その他。凡例の丸は上から30,000トン、60,000トン。



資源評価ベースモデルに用いた資源量指数（上：はえ縄総合CPUE、1959～2019年、下：FAD漁業に用いるエコサウンダーバイ（魚探が付いている無線で送信し、離れた場所から鰯集魚群量をモニターできるブイ）のデータを利用した小型魚の資源量指数（2010年第1四半期～2019年第4四半期））



SS3の27シナリオで推定された資源状態の推移  
青丸は最新年（2019年）の資源状態。